

1 趣 旨

教員が学習指導要領の改訂で示された児童生徒の「体験活動」の必要性について一層の理解を深めるとともに、活動プログラムの実習を通して「体験活動」の充実に資する。

2 ねらい

- (1) 新しい学習指導要領で示されている体験活動の必要性について理解を深める。
- (2) 実習を行うことにより、体験活動の指導力を高める。
- (3) 体験活動を行う上でのリスクマネジメント、危機管理能力を高める。

3 日 程

- (1) 期 日 平成 28 年 8 月 17 日 (水)・18 日 (木)・19 日 (金) 2 泊 3 日
- (2) 参加者 22 名
- (3) 対 象 小・中・高校免許状更新講習対象者

8月17日 (水)	午前	○受付 ○開講式：所長挨拶 ○講義「学習指導要領と体験活動」 講師：金沢星稜大学 教授 井上好人 ○演習「体験学習法の体験①」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法とは・体験学習法エクササイズ他
	午後	○演習「体験学習法の体験②」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法（新聞紙タワー、謎の宝島） ○講義「体験活動と安全管理」 講師：金沢星稜大学 教授 清水和久
8月18日 (木)	午前	○実習「体験活動の実際①」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・火起こし体験・野外炊飯（カレーライス作り）
	午後	○実習「体験活動の実際②」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・いかだ体験
8月19日 (金)	午前	○実習「体験活動の実際③」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・ポイントオリエンテーリング
	午後	○講義「体験活動の教育的意義」 講師：金沢星稜大学 教授 池田幸應 ○履修認定試験 ○閉講式 次長挨拶

4 成果と課題

《成 果》

- 学級経営・子どもの体験活動の指導に生かす手ごたえを感じることができた参加者が多くいた。

- 大学教授と交流の家職員それぞれの専門性を生かした講義・演習・実習をとおして、自然体験活動の指導者としての必要な知識や技能を習得することができた。
- 異年齢、異校種の参加者が、チームを構成した講習・実習を通して、交流・情報交換したことが、今後の教育活動に生きると実感した。
- 新しいことに挑戦する場合のリスクマネジメント、危機管理の重要性を実感した。

【感想より】

- ・直接体験によって学ぶことの大切さを実感した。
- ・子どもの気持ちになって、活動できた。
- ・子どもたちに体験活動をさせる機会を多く作ってやりたい。その際の、計画、準備下見とリスクマネジメントの重要性について考えさせられた。
- ・互いの持ち味を出し合い、協力して目的を成し遂げた時の達成感は素晴らしい。この気持ちを子どもたちに伝えることができるような教員でいられるよう努力していきたい。
- ・体験活動が、集中力や説明力に繋がることを知り、多くのいろいろな体験活動をさせてやりたいと思った。
- ・講義と実習で、内容や時間の調和がとれていてよかった。
- ・2泊3日、新たに知り合った方々（校種、年齢）と協力し、無心に、楽しく活動できてよかった。
- ・単なるグループでなく、同じ目的意識を持って構成されたチームを組んで活動することの意義を深く考えさせられた。
- ・募集時期がちょうどよかった。

《課題》

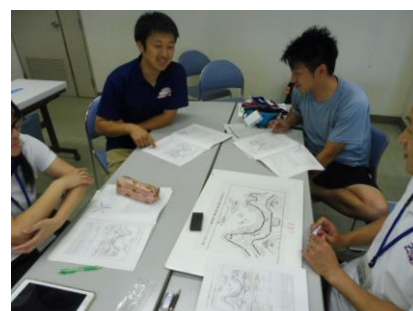
- 実習によっては、教員のため、早く終了するので、内容を考えてみる必要がある。



講義「学習指導要領と体験活動」



演習「体験学習法の体験②」



講義「体験活動と安全管理」



演習「体験活動の実際①」火おこし



演習「体験活動の実際③」オリエンテーリング



講義「体験活動の教育的意義」